



2000年7月1日
発行
山梨医科大学
医学部附属病院

医療事故を未然に防ぐために —「医療事故防止マニュアル」の発刊に際して—

病院長 塚原重雄

最近、原子力発電所の臨界点事故、新幹線トンネルからの壁落下、宇宙ロケットの失敗等々、日本の科学水準を危惧するような事故が新聞を賑わしていることは残念なことである。

医療面でも、患者取り違い事故、点滴ミスによる患者死亡事故、輸血の取り違い事故と、常識では考えられないような医療事故が全国で相次いでいる。

本学のすべての医療従事者が、これを対岸の火事としてとらえるのではなく、それぞれ銘々の日頃の医療行為に照らし合わせて、自己点検してほしいものである。

高度化する一方の医療現場で、医療ミスを完全にゼロにすることは極めて難しいが、これらの医療事故は、医療の高度先進化で起こったとは考えられない。

看護婦不足や、医療現場の構造上の問題も含まれていたかも知れないが、医療従事者の心構えが重要で、10年間無事故でも、気のゆるみによるたった一つのミスが取り返しのつかない大事故につながることを、医療従事者全員が認識していなくてはならない。

医療技術が進歩しても医療に向けられる資源は有限であり、そのなかで、看護や管理などの人的資源は最小限確保されねばならないが、医療従事者の、日頃の、少しでも医療ミスをなくそうという心構えが事故防止につながる。とにかく人間は、慣れに流されやすく、時に自分の日頃の行動を振り返ってみて、チェックしてみるのも事故防止の第一歩である。

自己チェックと医療事故防止のために、技術的な様々な対策が本院の安全対策委員会で練られ、「医療事故防止マニュアル」が発刊された。このマニュアルは、

診療科・部・病棟などの各セクションと各医局に配付されており、基本的な対応から具体的な項目に至るまで、医療事故を未然に防止するための重要な情報が網羅されている。単に、マニュアルを整備することによって、医療事故の発生を防止できるとは考えられないが、すべての医療従事者がマニュアルを利活用して、医療事故の未然防止に取り組んでほしい。また、このマニュアルは、常に最新の情報やインシデントレポートをもとに見直しを行い、改定をしていきたいと考えている。

我々医療従事者にとって、患者さんの安全確保は最優先事項であり、それを実践し、保証していくことは、我々医療人の義務でもあることを一人ひとりが自覚してほしいものである。

しかし、ときには避けることのできない偶発的な事故や、不可抗力による事故も起こることが考えられるが、その際、医療従事者が誠意をもって被害者やその家族に最善の対処をすることは、人権を尊重するという理念に基づく当然の行為である。そのような局面で大切なことは、インフォームドコンセントの適切な実施を踏まえた上での、医療従事者と患者の信頼関係の構築にあることを忘れてはならない。



■医療事故等が発生した場合の取扱い

医療事故やインシデントの事例が発生した場合には、同様な事故や事例を繰り返さないためにも、「事故等発生報告書」と「インシデントレポート」を提出することとなっております。医療事故は、患者に傷害を及ぼすこととなった事例（過誤の有無を問わない。）を言い、インシデントは、事故には至らなかったが、ヒヤリとしたりハッとした事例を言います。

医療事故が発生した場合には、当事者、現場責任者は、まず、患者の生命を守り、傷害を最小限度にするための速やかな対応をとり、その後、所属責任者と病院長に口頭で連絡するとともに、速やかに「医療事故等発生報告書」を作成し、病院長に直接提出してください。（事故発生時の対応：マニュアル45頁・46頁）

インシデントの事例が発生した場合には、所属責任者に報告するとともに、速やかに「インシデントレポート」を作成し、医事課（担当：金子専門員内線2072）を経由して病院長に提出してください。

附属病院ボランティア活動について

庶務課 高村 清

本院は、地域の中核病院として、医療を受ける人、医療に携わる人、本院を利用する方の誰もが満足できる質の高い医療サービスを提供し、地域の人々に貢献することを目指しています。

患者様は、病を抱えた苦しみは言うまでもなく、日常生活とは異なる病院内での行動や生活を余儀なくされます。それだけで精神的不安や戸惑いなど、目には見えない不自由を抱えています。

病院ボランティア活動は、患者様やご家族の精神的な支えとなることや心のやすらぎがもたらされること、また、患者様の院内における移動活動へのサポートなど、多くの効果が期待でき、本院が果たすべきたくさんある機能のうちの重要な一部分を担うものであると考えています。

本院が実践しようとしている医療をご理解いただき、

ボランティア活動に参加して善意の奉仕を提供して下さる方々のご協力を得るために、平成12年2月から山梨県ボランティア協会の協力を得て県内ボランティアボード170個所に募集案内を掲示するとともに、近隣市町村の掲示板を利用していただき募集活動を行っております。現在、32名の方から活動希望の申請があり、その内19名の方に活動していただいています。

活動の内容は、外来患者様の受付の補助、案内及び2階東病棟、3階西病棟での花壇の手入れ、入院患者様のお世話等です。

今後は、患者様の院内での生活の質の向上を目指し、より高度な医療サービスを提供するため、病院ボランティアと病院が連携して、受け入れ体制を充実させていきますので、病院ボランティアへの職員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

クライアント中心の医療（メイヨクリニック視察報告）

数理情報科学 比江島 欣 慎

2000年2月13日から17日にかけて、アメリカの病院経営の実態を調査するために、ミネソタ州ロチェスターにあるメイヨクリニックを精神科の神庭教授、医療情報部の佐藤教授および私とで視察して参りました。ロチェスターはメイヨクリニックを中心とした小さな町で、主だった建物はすべて地下道やスカイウェイ（渡り廊下みたいなもの）でつながっており、外に出ることなく行き来できるようになっていました（外はとにかく寒い！）。クライアント（患者さん）が利用するであろう通路にはクッション性のあるカーペットが敷かれ段差等は皆無で、バリアフリーという言葉が存在しないほどその点への配慮が徹底されていました。クリニックのある建物の内装は日本という病院といったイメージではなく、もっぱらオフィスといった感じでした。診療科ごとにクライアントの待合室があるのですが、そこに行くまでは「Desk11 West」といった具合の表示しかなく、待合室に行ってはじめて診療科がわかるようになっていました。おそらく、クライアントのプライバシーに配慮していることだと思います。

クリニックでは、医師は白衣を着ておらずネクタイを締めたスーツ姿で診察していました。待合室にいるクライアントを迎えに来て世間話をしながら診察室に入っていく、診察が終わるとクライアントとともに診察室を出て待合室まで送る、クリニックで見た医師の一連の診察行為には大変驚かされたのと同時に、メイヨの医療へのポリシーみたいなものを垣間見た気がしました。経営においては、クライアントの満足度の徹底した調査を基に、提供する医療の質を常に改善できるシステムを構築し運用していました。

すべての面においてその中心にクライアントが存在し、クリニックのスタッフが協力してその依頼に応える、医療のあるべき姿の1つの形をメイヨクリニックは見せてくれました。山梨医科大学附属病院が目指すべきところもそこにあるような気がします。

メイヨクリニックについての情報はホームページで見ることができます。

(<http://www.mayo.edu/MayoHome.html>)

紳士淑女の韓国研修だより

看護婦長 有田 明 美

現在、個々の国立大学が厳しく評価される時代を迎え「経営努力」が今まで以上に迫られ、ある程度の効率性・採算性が問われることになってくる。

このような現状の中で、平成12年1月23日から26日まで大韓民国のソウル大学と延世大学附属病院の二つの施設で研修する機会を得た。3人の先生方は、当院の将来の方向性を見出すべく、両大学の先生方との議論に明け暮れた。

我々二人は「韓国の看護事情を学び当院の看護を考える。」を目的に、両施設の多大な配慮を頂き色々な部署を見学する事ができた。韓国では一・二を誇る大規模な施設であり、ベッド数約1600床を有している。稼働率も90%をはるかに超え在院日数も11日程度と短いものであった。

同じ敷地内に「癌センター」「循環器センター」「治療

センター」等の施設を備え収益があがるころには人材を多くつぎ込み、建物や設備にも投資していた。しかし、病室の環境・陣痛室・新生児室・手術室等色々な場所を見学したが、患者にとってのより良い環境という視点で見るときには当院の方が進んでいると感じた。又それぞれの病棟・手術室にも入り口にスタッフの写真を貼り工夫を凝らして、患者様・家族の皆様を紹介していた。それぞれの職種が責任をもってアピールしていく姿勢は学ぶものがあつた。そして一番印象的だったのは、自分の卒業した大学附属病院に残っている看護婦の割合が多い事、そしてそこで働く事を看護婦自身が誇りに思っているという事である。そういう看護婦でありたいと思った。

美味しいものもたくさん頂いた事はもちろんだが、3人の先生方の紳士的なエスコートが我々二人の研修をより印象深いものにした。

患者様からの投稿

病棟にて

未だ夜が明けやらめ山波は、黒々とした帯地のような広がりを見せて、左右に長く続く屏風絵のようでもある。その墨絵の頂きに輝し銀の霊峰が鎮座している。東の空は茜色に染まり始めて、眼下に広がる遙かな家々の灯が、夜と昼の狭間を惜しむかのように瞬いている。

高樓の最上階の病室で、夜明けとともに目覚める私は、今日で丁度十日間を過ごした。四人部屋は開口部が、六枚仕立てのガラス窓になっていて、ベッドにいながらにして日々移りいく季節を目のあたりにすることができる。

同室の高齢者四人は、仕事や家庭の事情は勿論、病状をも決して尋ね合ったりはしない。時々回診に訪れる主治医との会話から、その人の病名を推測することはできる。だが、それぞれが、様々な思い出を大切に抱いているのだろう。波乱の中を駆け抜けてきた男たちの孤独の愁いが、言わず語らずのうちに伝わってくるように思える。

デイルームで朝食を済ませて部屋に戻ると婦長と数名のナースが、血圧測定と体調の問診に巡回してきた。ベッドの上部の壁から下られたピカソの絵のバスタオルが、無味な壁面を我がものとし、わずか三メートル四方の我が家の居住権を、精一杯主張している。

「あら、すごいですね」婦長は言った。特異な患者と思われたいくなくはなかった私は、「でもこれ違反じゃないですよええ、画鋏で止めたんですから」と。

カーテンレールからは、観葉植物の釣り鉢が下がり、枕しながらも富士ヶ嶺の眞白き姿と、そり返ったように元気いっばいのポトスの緑が、不思議と調和している。

「ピカソ、私も好きなんです。ゴッホのひまわりも好きだし、アイリスなんかもいいですよええ」と担当のナースが言った。

「僕はゴッホのあの自画像は、底しれぬ深い悲しみが秘められていて、恐いけど好きなんだよ」と。

「でも明るい絵もありますよええ」と彼女は会話を続けた。

「ああ、アルルの跳ね橋ね、あれに会いたかったんだけど、数年前ゴッホ美術館を訪ねた時に、ここアムステルダムには置かれていなくて残念だった。貴方は未婚なんですよ」と、つい立ち入った質問を試みてしまった。

「ええ、まだです」

「ご家族は？」

わたなべ・公文

「母が昨年逝ってしまっ。弟はお嫁さんをもらったんです」

「じゃあ、お父さんと二人暮らしなの？」

「いや、父もだいたい前に亡くなってしまったんです」

「あっ、そう」

血圧測定は振り出しに戻り、再び空気が送り込まれてしばし沈黙が続いた。

寝相の悪い私は、いつも毛布をはだけてしまうのだが、深夜の巡回で冷めた体に毛布が掛けられて、時々浅い眠りから覚めることがある。

介添えがなければ起床できないHさんは、用便や小物を落としたと言っては、日中は頻繁にコールする。その度ごとに明るい言葉でやさしく応ずる会話が、心地よく伝わってくる。「また何かあったら呼んでくださいね」と言ってナースは笑顔を残して出て行く。

食事は航空会社の機内食のように、温いものと冷たいサラダや果物は、きちんと区分されて、管理のいき届いた専用のロッカーに収納されて運ばれて来る。薄味なのに少量なのか、何を食べても私にはおいしく、全て蓋付きの容器に盛り付けられた惣菜は、やや懐石風でもある。

あらゆる角度からの体内の検査は、最先端の医療機器が活用されていて、文明の進歩の目覚ましきには、ただただ驚嘆せざるを得ない。でもそれを活用するのは人以外にはあり得ないはずだ。ナースも医師も、どうしてこんなに親切なのだろうかと思う。患者の立場に立ったケアのシステムが、徹底されているのだろう。しかし、それはマニュアルにはめられた、チェーン組織の販売員の明るさとは、異質のもののように思えてならない。

文明の恩恵に浴しながらも、人の心のやさしさや、美しさには心を打たれる。ああ私は確かに生かされている。やさしいナース達や医師によって。そして日々移りいく季節の流伝を目のあたりにして、この大地に生かされている至福に想いを巡らす。

今朝の山波はすっかり鉛色のガスに覆われて、昨日のなごり雪が眼下のグラウンドを黒く冷たく濡らしている。一台の車がテールランプをひときわ鮮明に引きながら、今日一日の営みを始めたようだ。

二〇〇〇年三月十七日

(山梨医大病院にて)

病院統計

年度別病院管理データ調べ

(単位：千円)

区分	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
外来患者数	223,515人	223,251人	230,872人	241,054人	252,715人
(1日当り患者数)	908.6人	911.2人	942.3人	983.9人	1,035.7人
入院患者数	185,369人	188,761人	189,366人	190,897人	190,806人
病床稼働率	84.41%	86.19%	86.47%	87.17%	86.89%
平均在院日数(一般病棟)	—	—	27.6日	27.0日	25.0日
(精神病棟)	—	—	90.5日	91.9日	55.1日
査定金額	96,846	98,641	75,497	76,567	95,694
査定率	1.34%	1.32%	0.95%	1.01%	1.18%
紹介率	22.89%	26.28%	34.38%	36.10%	40.95%
院外処方箋発行率	51.59%	59.63%	61.77%	63.43%	66.01%
診療報酬請求額(入院)	6,384,203	6,803,258	6,651,725	7,078,388	7,412,013
(外来)	2,107,547	2,071,750	2,058,541	2,090,747	2,205,102
(計)	8,491,750	8,875,008	8,710,266	9,169,135	9,617,115
診療単価(入院)	34,440円	36,042円	35,126円	37,080円	38,846円
(外来)	9,429円	9,280円	8,916円	8,673円	8,726円
差額室料	15,904	20,744	46,565	46,330	43,421
重症病床室料	18,680	30,473	34,526	34,967	34,314

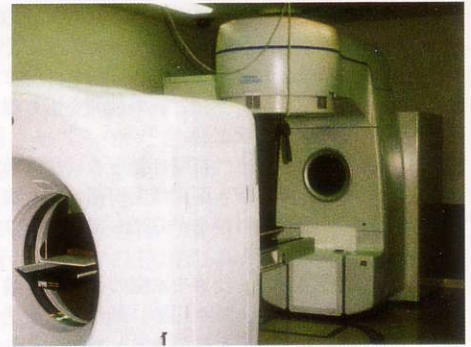
夢の放射線治療の到来—新放射線治療システム紹介

放射線科 大 西 洋

昨年度の概算要求のトップ申請によって放射線治療システムが14年ぶりに更新されました。コバルト照射室を除く全ての部屋が新しく生まれ変わり、今より稼働開始します。新しい放射線治療システムは以下の8つの特徴からなり、従来は不可能であった照射方法を実現します。

1. 6 MV及び10MV-X線発生リニアック（浅在性、深在性腫瘍両方対応可能）、2. リニアック-CT同室一体型装置（CTを撮った直後にそのまま照射）、3. マルチリーフ（コンピュータ駆動極薄ブロック）採用、4. Radiosurgery対応（全身に適用可能）、5. Intensity Modulated Radiation Therapy（一つの照射野内に線量の高低差をつける）、6. CT simulator（CTと治療計画装置の一体化）、7. 治療計画専用コンピュータ（3次元照射計画可能）、8. 極小線源遠隔操作充填装置。

これらの新しいシステムにより、正常組織を避けて腫瘍のみを選択的に、しかも低侵襲で照射する事が可能となり、これまでに比べ効果・副作用において格段の進歩が期待されます。どのような症例に対して適応があるかにつきましては、その都度ご説明いたしますのでお気軽にご連絡下さい。



ベッド洗浄室紹介

看護婦長 甲 田 壽美子

東病棟1階物流管理センター奥に、ベッド洗浄室が完成しました。患者様に、ベッドをいつも清潔な状態で、使って頂く為にベッドを洗浄し、マットレスを消毒する機器を備えております。

ベッドは80℃の熱湯で洗浄・除菌でき、1台あたり15分で洗浄が可能な機械です。

一日9台から10台のベッドを洗浄し、各セクションのものと交換しています。マットレスについては、スチーム消毒装置で、105℃で5分間の消毒を行い、一度に13枚をまとめて消毒できる機械が設置されています。

1名の作業員が、ベッド搬送からベッド洗浄・マットレス消毒、ベッドメーキングまで行い、清潔で安全なベッドを供給しています。



病院運営委員会から

※平成12年5月病院運営委員会審議事項等について

- 治験センターの運営委員会委員について
委員の選考について、資料に基づき説明があり、承認された。
- 手術同意書等への押印について
署名又は署名及び押印とすることで承認され、6月1日から実施されることとなった。
- 附属病院の安全管理に関する諸規則等について
諸規則の制定及び改廃について、資料に基づき説明があり、承認された。
- 高度先進医療の申請について
高度先進医療委員会で審議された脳内視鏡手術について、資料に基づき説明があり、高度先進医療として申請することとなった。
- 選択メニューについて

資料に基づき説明があり、6月から週2回を週4回実施することとなった。

※平成12年6月病院運営委員会審議事項等について

- 再診予約票について
レイアウトの変更について、資料に基づき説明があり、各診療科において検討してほしい旨の依頼があった。
- 教官の勤務時間調査について
病院の経営分析の一環として、教官の教育・研究・診療に関する勤務時間調査の実施と協力依頼があった。
- 病院改善5か年計画について
資料に基づいて、推進計画について説明があり、協力したい旨の依頼があった。
- 患者さんへのアンケート調査について
より良い医療サービスを提供するため入院患者さんを対象にアンケート調査の実施と協力依頼があった。

編集後記

本号より下記の広報委員で担当します。これからも、皆様のご協力を得て、より充実した紙面にしていきたいと考えておりますので、積極的にご意見、投稿をお寄せいただけますようお願いいたします。

(hiroyau@res.yamanashi-med.ac.jp ☎ 2126)

広報委員長：塚原 重雄 広報副委員長：小島 聡
佐藤 弥 平田 修司 今井 雅仁 小池 亨 新井 誉夫 荒井 千春
佐藤あけみ 網野 真紀 新田 妙子 井上 光三 堀口 幸典 相川 勝則
宇南山弘谷 山田 徹 石原 義久